

第 1 回山岳トイレし尿処理技術WG会合における指摘事項に対する回答

平成 18 年 10 月 26 日

ニッコー株式会社	
検討員からの意見	対応
1. 循環水に関する法律的な基準や用途について確認	下水処理水の再利用水質基準等マニュアル(国土交通省 17 年 4 月策定)
2. 処理水は塩素消毒を行っていないため、作業員への影響の有無を考慮	処理汚水について、大腸菌群に加え、大腸菌の測定も行う
3. 水道法等の水質基準においては、大腸菌が検出されないことと規定されているため、大腸菌群でなく、大腸菌を調査するよう意見	調査項目に大腸菌を追加
4. オゾンの残留濃度等安全性に関し、調査項目を追加する必要があるのではないかと意見	調査項目として残留濃度を追加
5. 処理槽に対する負荷変動に対して、流量の調整能力を把握する必要があるのではないかと意見	固液分離槽の流量調整部に水位計を取り付け、水位の変動を記録
6. 手作業を含む膜の閉塞状況の確認及びメンテナンス方法について、効率的な手法を検討するよう意見	現状のまま、手作業により対応
7. 冬季における水温低下に対して、ヒーター等による加温を行うことにより、処理能力を確保することが望ましいと意見	ヒーター設置
8. 装置の維持管理に関して、衛生・安全管理計画の見直しを行うべきと意見	実証試験計画中の文言を修正 (山岳地の注意事項について)

永和国土環境株式会社	
検討員からの意見	対応
9. 余剰水貯留槽の大きさについて質問	実証試験申請書に余剰水貯留槽設計計算書を追加添付(実証試験申請書添付4)
10. カキガラメンテナンス方法に関して質問	初期投入量750kg(5年後に15kg補充)
11. 循環水に対する活性炭の脱色効果の有無	活性炭脱色効果を測定するために、活性炭通過前後に色度を追加

株式会社東陽綱業	
検討員からの意見	対応
12. 試験計画の実施体制について、実証委員に関する事項を明記するよう意見	実証試験計画に追記
13. 試験計画中の消費電力の単位について質問が出された。	単位を修正(月当たりであることを確認)
14. 杉チップ槽におけるハエ等の発生の有無について、調査することが望ましいと意見	目視により実施(チェックシート内に表記)
15. 実績データのCOD値について、データの内容を確認するよう意見	<p>本処理システムの特徴として、流入変動が少なく、ある程度一定の負荷量であれば、BOD、CODとも同程度の高い値で安定する。</p> <p>処理に關与する微生物が流入負荷に対し一定の増殖・死滅を行いながら分解処理しているため。また大腸菌群は極めて低い値を示す</p> <p>これらから循環水中のBOD、CODで表される有機物は、主として水処理に関わる有用微生物群であり糞便由来による病原菌等はゼロ若しくは極めて微量と考えられるため、人体への影響は少ないものとする。(今後の検討課題とする)</p> <p>(富士山佐藤小屋だけが、CODがBODに比べ異常に高い原因は、当時(2000-2002年)の測定生データを紛失しており、検証することが出来ず不明)</p>
16. 処理性能の実証項目に「杉チップ」を追加したことについて、実証判断基準をどのように設けるのか明示するよう意見	実証試験計画に表記
17. 試験計画のし尿処理フロー図にある「蒸発」について、屋内及び周辺への影響を調べるべきとの意見	最終採水の前の回(12/18を予定)に、トイレ周辺、処理室内のアンモニアガス濃度を測定し、トイレから離れた場所の測定値と比較し、影響の度合いを検証。
18. 水道法等の水質基準において、大腸菌が検出されないことと規定されているため、大腸菌群ではなく、大腸菌を調査するよう意見	調査項目に大腸菌を追加